



▶ 今月の表紙 ◀
field : 亀山湖
angler : 生井澤 聡
photo & layout : 本誌・里

特集

燃える巨鮎魂2007

- 10 生井澤 聡【亀山湖、50上への挑戦】
- 22 棚網 久【津久井湖の怪物、再び…】
- 28 集まれ、熱き巨鮎魂！

- 34 石井旭舟 **へらぶな浪漫街道**
《第五十三回》埼玉県 びん沼川
- 41 岡田 清 **Deep Side Angle**
《Vol.41》【攻撃開始】 野田幸手園 (千葉県)
- 46 小池忠教 **激釣の急所**
《第五回》浅草へら鮎会4月例会 三島・豊英湖
- 52 斉藤心也 **炎のチョーチン12番対決!!**
《第6戦》vs小林恭之in鬼東沼
- ★**AREA REPORT**
手賀沼水系 (千葉県) 本誌・伊藤洋一
邑知漏 (石川県), 豊田湖 (山口県) 山本一朗, 河口正伸
朝日池 (岐阜県) 後藤 誠
室生ダム (奈良県) 前田誠志
- 61,66
62,68,71
63,69
64,70
- 134 竹とともに生きる。
《第43回》「源一人」 山田幸弘
- 138 **ゴールデン・クラブ創立40周年記念釣り大会**
- 141 杉山達也の**SUPER SPLASH!**
《ROUND.17》V杯全国大会会場、筑波白水湖を攻略!!
ルバス・グランカップ

- 147 中澤 岳 **フィールド真っ向勝負**
《Vol.17》利根川アタック
- 152 田辺哲男 **MYへら道**
《へら道その五》初めての竹竿で、HERA-1 GPを突破したい!
- 156 吉川ひとみの**あっち こっち そっち♡ 激闘編**
《Vol.3》ひとピー、加須吉沼ミ2賞金大会で大撃沈!?
- 193 戸張 誠 **関へら戦記2007**
《第三回》3月例会 三島、豊英湖「巣離れ!」 & 4月例会 丹生湖「誤算」
- 198 伊藤さとし **「将鱗へら スーパープロ フロロ」で
三名湖の良型べらを釣る!!**
- 202 北川穂積 **西の交友録**
《第十八回》ゲスト:三木 修 釣り場:秀天(岡山県)
- 205 **釣り味**
《第6回》お食事処・釣船「うえ乃」の純・芦ノ湖産【わかさぎ定食】
- 206 **釣果予想クイズ**
- 208 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》黒沢絵美さん 羽生吉沼

釣り場割引 クーポン券

p.163~

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼
上尾園 F.A吉羽園
谷養魚場 将監
柳生 F.P 筑波白水湖
泉堰 逆井H.C
友部湯崎湖 三和新池
狭山H.C 川越 F.C
芦田湖水光園
鳥羽井沼 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩
吉森H.C
甲南へらの池 当麻池
水藻 F.C 朝日池
釣り堀八十八
精進湖・釣舟 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣舟 丸美
西湖・釣舟 青木ヶ原
府中H.C

- 76 **へら鮎釣り 超基本講座**
《第29回》【チョーチン両ダンゴ編】前編
- 83 **ガチンコ道場**
《第18回》春のトーナメント開催!
- 91 **都祭義興 カリスマ伝説2007**
《Vol.18》～入れ食いフェスティバル in 印旛～
- 99 **江成公隆のトーナメンター、復活への道。**
《Vol.60》煙幕の中心で、粒を食べる?
- 106 **夢追釣人(ゆめおっもの) 天野正由**
今月の夢・諏訪湖のフナに会いたいの 諏訪湖, 田川浦湖, みどり湖, 鎌北湖
- 110 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**
《今月の星空》「大和国 下市村」
- 114 **最狂へら戦士養成所“鮎の穴” 漢タカハシ**
《第五十二話》土曜に悲劇のドラマあり! 絶不調...亀山乗込みレポート
- 119 **へら鮎を三枚に下ろす 西田美明**
《第6回》「バラケ&食わせ」を解剖する。

- 122 **釣れてまっか? 釣らせてくださいっ! 南元彦**
《第6回》風の神様よ何故...! 名神竜王FC宮川園
- 124 **水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト**
《第6回》「思い込み」
- 126 **野田幸手園新聞**
- 161 **ワクワク管理釣り場情報**
- 170 **小売店情報**
- ★**へら鮎BOX**
里ちゃんの新興編集長雑記
情報発信基地
ボイス
175 コラム「日研だより」 日研広報部長・遠藤克己
176 コラム「上村流」 上村恭生
179 コラム「紀州“想いの竹”のものがたり」 中峯伸行
187 プレゼント発表
188 広告索引
189 編集後記
190
191
192

「棚網 久の我流」、稲毛利夫「崖つづち釣り!」は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮎NET
根本大作
高田 準

●企画
〈オフィス・えび〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の

トーナメント、

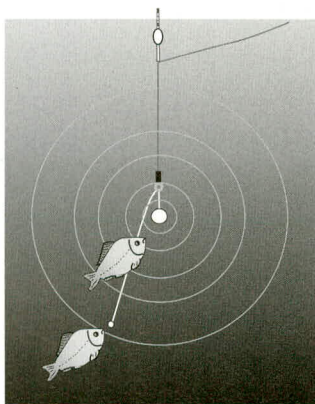
復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！→はいは再発症！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.60〉

「煙幕の中心で、粒を食べる?」



時代を超えて使われ続ける名作
〈発案は、あのお方!?〉

でたっ！
久々の超「えな理論」原稿だ!!
先月号の「例の一件」以来、
まるで生まれ変わったかのように釣りに集中し始めたアニキ。
単純というか何というか…。
そして今月号の、この原稿である。
コッテコテ濃厚。
しかも、底釣りではなく「セット」について！
嬉しいような、読みづらいような…。
でもアニキ、ちょっと文字量少なくないっすか？
えっ、途中でくじけた…!?
そんなオチかい！（怒怒怒怒怒怒怒怒怒怒）
まあとりあえず、目前に迫ったパリバス予選、期待しましょう。
来月号は「祝・全国大会出場最終回スペシャル」でネ！

by 里ちん

① 落下中というファクターが重要視され、ぶら下がった状態を基本イメージに据える模式図では、説明がしにくくなってきた。しかし、なるべく短いハリスセッティングを用いることで、落下中でもほぼ一定の段差をキープしやすい。まだまだ距離感は無効である。

② 抜き系は以前からあったが、有効なケースが増え、「メーター規定によって作られる安全地帯の弊害」だけで片付けられる状況ではなくなってきた。「へらはいるもんだ」が前提の世代の僕的には、「渋い」縮める」のがセオリ一なのに、そんな状況でもアマイバラケで地合になるのを見聞きする。明らかに激しく拡散していると真ん中にクワセの下バリがある

何度か書いてきたセット編の中で、僕の理解はこういう歴史を辿った。

セットでの「距離感」を説明する際に、僕も度々用いてきた円の模式図。
「実際の水中はこうではない」としながらも、「クワセをどこに置くのか」つまり、バラケの拡散範囲とへらの位置・ハリス段差をイメージするのに大いに役立つた筈である。現代セット釣りの基礎となったのは間違いない。しかし、僕も過去の記事で触れたが、「距離感」というものがつかみづらい近年のセット釣りにおいては、その模式図はただのガラクタに過ぎないのではないだろうか。というよりむしろ、現代セット釣りで短期間で結果を出そうとした場合、足かせになるのではないか…。そんなことを感じながら、連載はもう5年経ったが、最近の取材で、自分なりに納得のいくカタチに収まった気がする。



円の模式図。

であろう、メチャクチャ長いわけではない下ハリスと組み合わせると釣果を上げているアングラも多く、距離感崩壊の可能性を少し認識。しかし、薄いと渋いものでは、釣果的には似ていても、状態はまるで違う。大型化によるへらの口数の減少で、寄りが保てなくなってきただけなのかもしれない。薄いけど「渋くない」のだとしたら、「寄り切って」しまえば、バラケの直近まで入ってくるのは不思議なことではない。警戒心やフィッシングプレッシャー的には渋くなくても、低水温による活性低下により、開くダンゴより固形のウドンの方が補食しやすいのか、真冬のカツツケは真っ黒に寄っていてもセツトになる。個人的にも、200枚近い釣果のうち、バラケを食ったのは数枚というデータがある。

③「粒」の流行。重く粗い粒子を組み合わせた上層のへらをタナに向かせる。当然、どつぶりナジミで放出されては効果が薄い粒子であるため、いきおいアマイバラケになりがち。それでも、「メーター規定によって作られる安全地帯の弊害」により、グレーゾーンでのみ釣れる、ただのイケイケだったアングラーを、なんとか「釣りらしく」した功績は大きい。「粒子感」というのも、最初のセツト編で「距離感」と共に書いた。重く粗い粒子が上ズリ対策であると同時に、下ズリというデメリットもあるならば、軽くて粗い粒子というものも有効なシーンはあるだろう。へらの口を開けさせるという目的に特化した粒子である。「粒」に頼らずに魅エサだけでも、タツツで剥がれ方というか抜け方をブロック状にすることは可能なので、使わない人もいる。

④あからさまにへらは「たくさんいる」のに、「渋い」状態に遭遇。それこそ超短バリスでいくらでもウキが動く状態。しかし、直近のへらが必ずハリのついたエサを食ってくれるとは限らないのだ。バックナンバーを読んで

らえば分かるが、冬のとある釣り堀でちよつとした事件があって、直近では食わないへらも、「たまたま」遠ざかった位置に移動した時には食うのではないかと、という結論に達した。ここで、「距離」とは、へらが食ってくる「位置」というより「ライン」なんだという認識に至る。「境界線越えを狙う行為が距離感の調整である」と言える。その後、それまで逃げていた暖季のセツトに挑戦。ダンゴでバクバクの中、「固形を補食したい」、「ダン」に近寄れない「遠巻きの変り者のラインを探してみた。糸ズレも何もかも、全く気にせず下ハリスをどんどん伸ばしていく。突き進んだ結果、別世界が待っていた。大型ラッシュになったのだ。しかし、そのラインにもっとも多いへらが、直近のへらより気難しかったり、サイズが変わらないようでは全く意味がない。

⑤パワー系の流行。デカめのバラケで寄せる釣りのことだ。イーグル、粒と来て、今度はこれ。家系でも何系でもいいが、寄せて釣るセツトには「クワセは誤飲」というイメージがつきまとう。岡田君との取材時にも書いたように、僕に誤飲というイメージは薄い。今回も岡田君に確認したところ、やはり「ヒゲとオカメ以外では『間違っただけ』は、パワー系においても意識していない」とのこと。アピールして、選んで食べていたにているつもりで釣っているぞうだ。実際の水中は見えないし、へらに感想も聞けないので何とも言えないが、もし本当は「誤飲」だとしたら、僕達がやっている行為（セツティングやエサ調整）は、「積極的に間違わせる」・「間違っ確率を高める」ということになる。

⑥天笠 充氏が言っていた「いいアタリだけ取る」。変なアタリに手を出さず、本当の食いアタリだけ手を出すということは、実は冷静に考えれば、ぶら下がった状態、すなわちタナで釣っていることになるので、「落下中」は、

さほど重要なフアクターではないことになる。しかも、バラケが切れてしばらく経つてからの釣り。バラケの拡散範囲と距離もへたたくれないように感じる。天笠氏本人も、以前取材した時に、「あの模式図は私はあまり重要視していません」と言っていた。しかし、「上のバラケが切れているから、次のアタリは自動的に下のクワセへのもの」でもない。漂っている粒子のせいでも、いくらでも糸ズレアタリが出る可能性は残っているし、バラケが切れた後にクワセに興味に向く保証もない…どころか、合っていないバラケやセツティングで待っている、まずアタリはもらえない。「誤飲ではない」は、このことから導かれる。

昔「バラケを嫌うタツツにする」という言葉があった。本当に嫌うかどうかは別としても、「上を嫌ったら自動的に」、下バリの好む保証は全くない。都合の良い解釈である。どんな組み立てや狙いでセツトを打つにしても、へらがバラケやハリス段差を選ぶのは間違いない事実なのだ。となると、やはりその日の正解に近付くための方程式（イメージ）が欲しくなるし、なければ「合わせた」とは言えない。

では、水中をどうイメージするのか。ゼロナジミの釣りでは、「ウキから下が、全部ハリス」というイメージがあるが、水面直下で抜けるバラケを大きな円とすれば、ウキから下全部の長いハリスという「段差」は、模式図と辻褃が合うような「気がする」。いったん入られて、バラケが落ちてからの釣りも、抜いた位置からの円だ。

今、「抜いた位置」と書いた。厳密に言えば、どんなに締まったバラケであっても、水面直下から粒子の抜けはある。一般的に、模式図が釣り人に与える違和感は、拡散範囲のカチチである。ナジミ切った位置から上方向にまでバラける真円。これはあり得ない。そんなことは分かっているの便宜上の図なのだが、僕自身もハマリ、きつと多くの人がハマっているだろう最大の欠点は、バラケがハリに付いている状態しかイメージしにくいことである。先ほど「気がする」と書いたのは、無意識にバラケがついている状態しかイメージ出来なくなっている「た」自分の気分を表現したもので、現在は大丈夫。どこで抜こうが、粒子が消え去るまでは「拡散範囲」は存在する以上、粒子とクワセのシンクロ（同調）を考える必要性も常に存在する。粒子をパツチリ効かせた状態で待ちたいがために、ある程度上から抜くのだ。また、拡散の内側に入ってくるへらの量が明らかに増え、「距離」はなくなつたように感じるが、ハリスを詰めて成功するケースが激減、「間違ひなくへらには届いている下バリなのに」、「遊び」を持たせないと食い込まない」と受け止めてしまう自分もいた。が、果たしてそれが全てだろうか。位置でもラインでもいいが、ターゲットを見誤っているだけのケースの方が多いのではないかと。直近はガサというだけのことではないのか。とすれば、旧来の円の模式図は、断り書きは増えても、やはり基本にすべき重要なイメージである。抜きの落ち込みであってもタナでの釣りであっても…。

⑦締まった小エサ方向で水中に提供する粒子を減らすことでへらを近付け、少ないバラケの粒子の代わりに「仕方なく」クワセを補食させる時代はとうの昔に過ぎ去った。最初は「寄りが保てないから」という判断をしていたが、どうやらそれは違う。やはり「へらはい前提で組み立てる方が失敗は少ないだろう。だから、開くバラケの意味は、「寄せて競い食いさせる」とか「はしゃがせて誤飲を狙う」というよりも、積極的なシンクロである。へらの学習が進んだだけなのだ。

…ナリーズは円の模式図を捨てない。

～椎の本の中心で、弁当を食べる～

〈ナリーズ4月例会にて〉



愛されてるじゃあ〜ん…と思いきや、奥様が「今日は仕事」と勘違いして作ってしまったのだそう。う〜ん、にしても羨ましいなあ…。ウチなんて…(里)

楽コト。

先月号の座談会によれば、トーナメントは秋まで「おあすけ」の筈だった。しかし、あれだけ持ち上げられた僕が木に登らないわけがない。なんてたって、打たれ弱く、誉められて伸びる典型的な一人っ子なのだ。バリバスカップは今年も出ること決め、エサもハリも買い込んだ。一昨年壊したウドン絞りは在庫がなく注文。インスタントウドンを絞る道具は購入。これは自分的には物凄いことと、周りに言わせれば、「今まではやる気がなかったんだね」ということにもなる…。そんなつもりはないんだけど、その後の椎の木湖でのナリーズ例会では天笠氏に続く二位になり、完全に調子に乗った僕は、ついにウキ作りにとりかかった。例会当日に借りたカヤウキでセット釣りでカヤウキの有効性を再認識したため、素材はカヤ。3サイズ各一本。たった三本だが、大きな進歩である。今まではそのたった三本が作れなかった。とりあえずボディの加工を終え、ウレタンを…と思ったが、塗料がみな死んでいたため、作業はそこでストップしていた。なかなか買いにいく時間がなく、バリバスまでには間に合うかな？と考えていたある日、帰宅すると下駄箱の上に息子達の力作が置いてあった。今日は粘土遊びだったようだ…ん？…

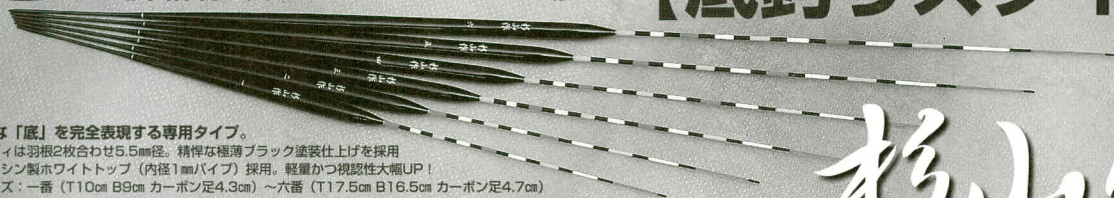
作りかけのカツケウキが大量にあり、「どうせ仕上げるだろうから」と、息子達のオモチャになっていた経緯から、今回は怒れないし、手の届くところに置いた自分が悪い。

忙しいとはもう言わない。でも、現実には深い。どんなに前向きに生きたところで時間が足りないのは事実であり…。バリバスは借り物で参戦に決定である。

新作!!

慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】



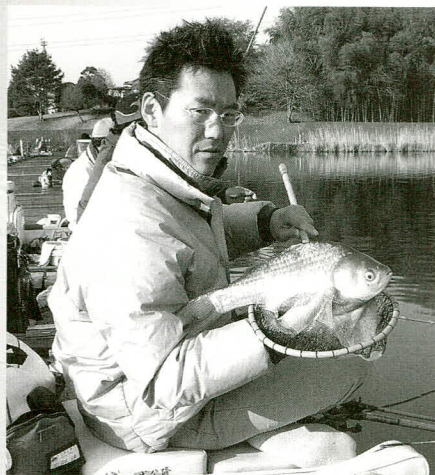
繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。

- ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
- ダイシン製ホワイトトップ(内径1mmパイプ)採用。軽量かつ視認性大幅UP!
- サイズ：一番(T110cm B9cm カーボン足4.3cm)～六番(T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm)ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
- 定価1本7,350円(税込)

取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 かわせみ(☎048・969・5067) 茨城・下妻 こやの釣具(☎0296・44・1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館(☎03・3499・5025)
 埼玉・入間 へらの三水(☎042・964・2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその(☎0285・72・2215) 神奈川・川崎 鮎仙人(☎044・287・7470)
 東京・吉祥寺 丸勝(☎0422・22・8923) 東京・青梅 吉川釣具店(☎0428・22・2467)

杉山作



～幸手の中心で、そこそこ釣る～

〈パリバス試釣にて〉

タナって何？

先日、この原稿を書くためのおさらい（取材？）とパリバスの試釣を兼ねて、幸手園に出かけたときのこと。ガチンコ平山氏が面白いことを言った。

「江成君さあ、タナを作るってよく言うけどさ、へらが一列に並ぶわけないんだし、しかも平面じゃないでしょうよ。ある程度の幅という高さがあるわけです。そんなことはみんな知ってるわけだけどさ、このメーターっていう釣りではとくに曖昧だと思っワケよ。はっきり言って、上から下までどこにでもいるでしょう？ 今日なんか平山だから絶対にさ」

全くその通りである。しかし、自分のターゲットとした位置（タナ）のへらが反応してくれなければ釣りにならないので、結局は釣り人側の思い通りの位置でサワってアタリが出ることが、「タナを作る」ということなんじゃないだろうか。

その位置に「厚く寄せる」ことを「タナを作る」とはよく言われる。しかし、「寄せ過ぎ」がマイナスで語られるケースもないわけではないので、上から下までへらがいる中で、枚数的にはもっとも「薄い状態」が、タナとして完成形であることもあるだろう。中小べらが上に押し上げられ、エサが入っていくスペースが出来、それまで持たなかったエサが持ちだし、釣れる型が大型ばかり…というケースがそれだ。ただこれも、上層に厚い中小べらの傘がなかったら警戒心は解けないだろうし、本当の意味での「薄い」状態とは言えない。

三角形でも逆三角形でもひし形でもいい。円筒でも丸でも何でもいい。イメージを持って釣りをすることが大事なのだと思っ。

光栄です？

平山氏に、もうひとつ言われたことがあった。それは…

「こないだのガチンコは秋ちゃん（秋野孝之氏）でね、彼、本当に化けモンだわ。そこまで考えて釣ってるんだあ…って驚いたのよ。でね、「あなたがこの釣りをさらに難しくした責任は大きい」って言うってやったのよ（笑）。そして秋ちゃん、否定しなかったね。で、さらにこの続きがあつてね、「自分だけじゃなく、当時の等々力のメンバーには全員その責任がありますよ」って言ったのよ。江成君、あなたにも責任あんだよ〜！」

ずいぶん会ってない秋野氏だが、平山氏が僕とツルんでいることを知っていたのお世辞である。それでも嬉しい。そして今度は、簡単にするのがナリーズの役目であり、平山氏の義務でもある。「簡単」は違うな。この釣りは大昔から「難しいから面白い」のだ。だから、きちんと整理するのがナリーズの役目だ、と言い換えよう。

円の模式図は、この連載で触れたかどうかは覚えていないが、「真っ向勝負」中澤 岳氏が初めてメディアに紹介したと記憶している。当時は生意気にも「先を超された！」と思っただが、極端に短いハリスを組み合わせる効果までは触れられず、ホツとした記憶がある。まだ誰も知らない領域で釣りまくっていた等々力一派としては、出来れば秘密にしておきたいという気持ちもあつたし、公開するのは自分達がメジャーデビューしてからだ、という、今思えばとんでもない野望もあつた。

しかしもっとも興味深いと思っただのは、全く違う地域で同時多発的に同じアイデアを思いつく人がいる、ということであつた。

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮒仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

<http://www.office27.com>
E-mail:info@office27.com



～ナリーズの中心で、ノーガキをこく～

〈バリバス試釣後の反省会にて、ラムネを堪能しながら…〉

なにも歴史に残る偉大な発明家達のエピソードを引っぱり出さなくとも、このへら釣というジャンルだけでも枚挙にいとまがない。例えばトロコン。自称元祖はたっくん。段底もそうだ。八十八例会の後、中澤氏ご本人とこの話をし、なんとも不思議な気分になった。

オリジナルって何だろう。ゼロ、つまり全く何もないところからは、やはり何も生まれない。誰しも情報や道具、材料を駆使して自分流（我流！）を作っていく。つまり、先輩方の遺産のおかげなのだ。

やはり、人は独りでは生きていけないのである。

「釣りをしないのにノーガキをこきやがってよ」という声はよく聞く。全くその通りであり、批判はキチンと受け止めたいと考えている。先輩ツラをするつもりは全くないし、頼ちゃんのようにお世辞を言っただけでもないが、まさか初心者時代に、過去に夢中だった僕と接点があって、そんな批判をしている方はいないですよ。

当時の僕の同期や友人には有名人が多く、すでに指導者の立場の方も多いたのですが、そんな中にもしいたら…「ガッカリだよ！」

って感じですか（ちなみにやっくんの実家はウチのすぐ御近所）。

「いや〜冗談抜きでそろそろ一回終わりにしたいなあ。間違っってバリバス通らねえかなあ…」

…っつてというのが江成の最近の正直な気持ちで…。

やっぱりプレッシャーって感じてますね。

九隻



Monthly fishing magazine herabuna

念願成就 生井澤 聡、 亀山湖の50上獲る!

そして...

その瞬間を、カメラが捕らえた!!



特集

燃える 巨魚釣魂

野の底釣りに 新たな切り札。

これまでのへらエサとは異なる、
まったく新しい方法で、
魚の活性を高め、食いを促す。
それが、底釣り用のダンゴエサ「真底」の特長。
より広範囲からへらを誘い、
より多くの食いアタリを引き出すため、
野の底釣りに威力を発揮。
しかも、底釣りのダンゴとしては、比較的軽めなので、
水草や、底の起伏の多い釣り場に効果的。
野の底釣りの、新たな切り札として活躍します。



魚の活性を高め、食いを促す。
やや軽めの底釣り用ダンゴエサ。

マルキュー独自のフェロモン系特殊誘引剤「ウルトラ
バイト・アルファ」を配合した、野釣りのための底釣り
専用ダンゴエサ。フェロモンの効果で、集魚・摂餌力
が抜群。さらに、連鎖反応により、周辺の魚の活性を
高め、競い合せてエサを食べさせる、摂餌促進効果も
期待できます。食い渋りにも有効。単品で、寄せて
食わせる底釣り用ダンゴエサが、簡単につくれます。

●真底 350g

丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/>

マルキューホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。



定価 1000円
本体九百二円

